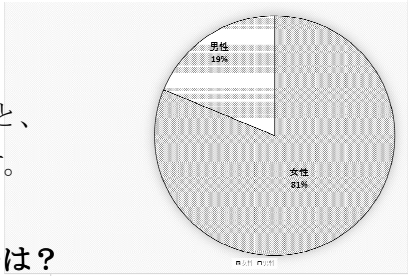
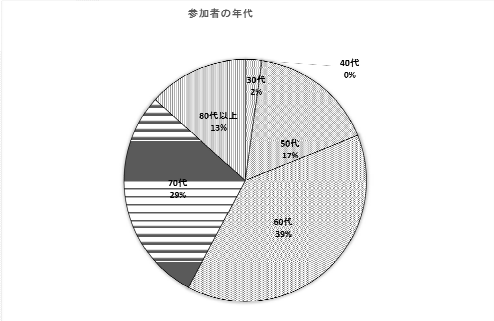
第４回高齢者まつりアンケート結果

●参加者

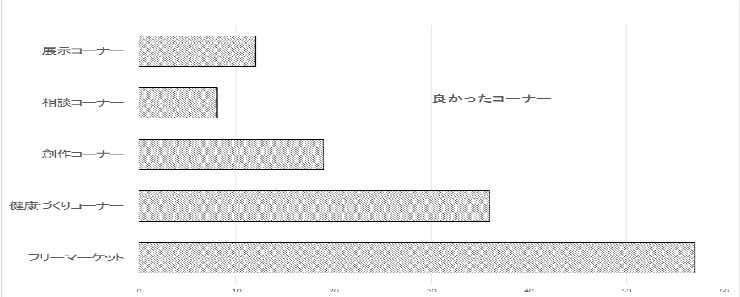
８割以上が女性でしたが、男性の参加者も増えてきています。　年代で見ると、60 代が４割、70 代が３割となっています。





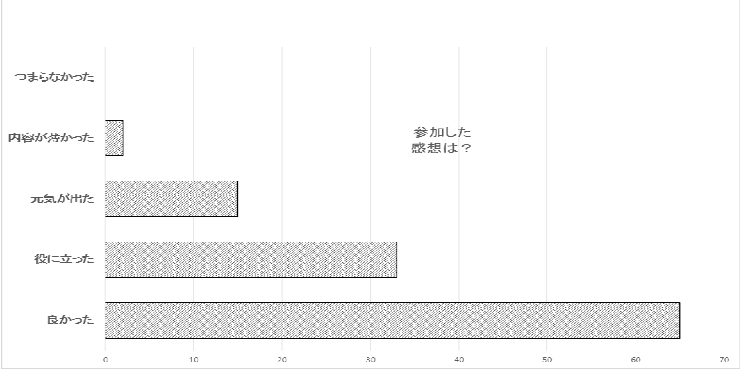
１．見学・参加されて良かったコーナーは？

参加者に一番人気があったのはフリーマーケットのコーナー。意外だったのは展示コーナーで、高齢期への危機感を共有する人が多いことを実感しました。



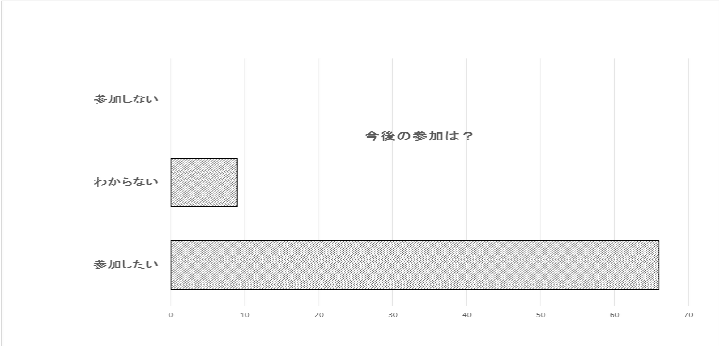
２．全体としての感想は？

参加して「良かった」と評価する人が多く、「役に立った」と思ってくださったり、「元気が出た」と思ってくださる人がたくさんいらっしゃって、開催の目的はほぼ達せられたと感じています。「つまらなかった」と回答する人はいなかったものの「内容が薄かった」と感じた方もおり、今後の課題としたいと思います。



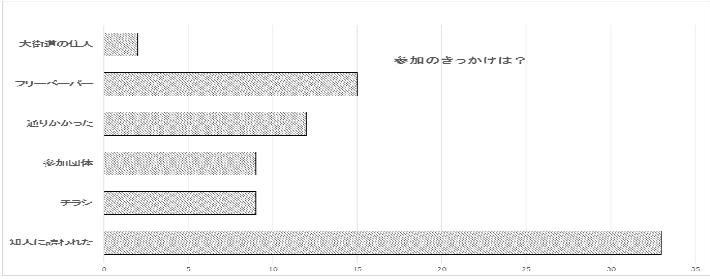
３．また「高齢者まつり」があったら？

今後の高齢者まつりへの参加の意向を尋ねると、「参加したい」が圧倒的に多く、残りの回答者も「わからない」としたものの、「参加しない」とした回答者は皆無でした。



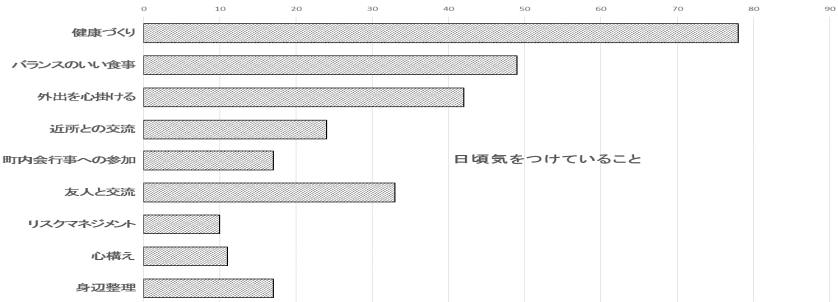
４．今回参加されたきっかけは？

参加の動機としては、「知人に誘われた」が最も多く、リックやリビングなどの「フリーペーパー」を見て参加された方、商店街を通りかかって、そのまま参加された人もおり、開催目的の一つである「交流の場」の提供が実現できました。

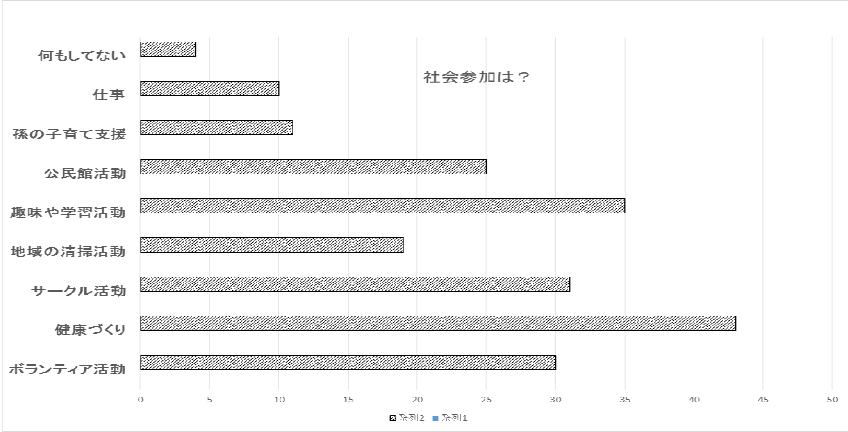


５．高齢期に向けて、あなたはどのようなことに気をつけていますか？

高齢者が今一番に取り組んでいるのは健康づくりです。後期高齢期ともなると認知症発症が増えることや、孤立が認知症発症に大きく影響していることも



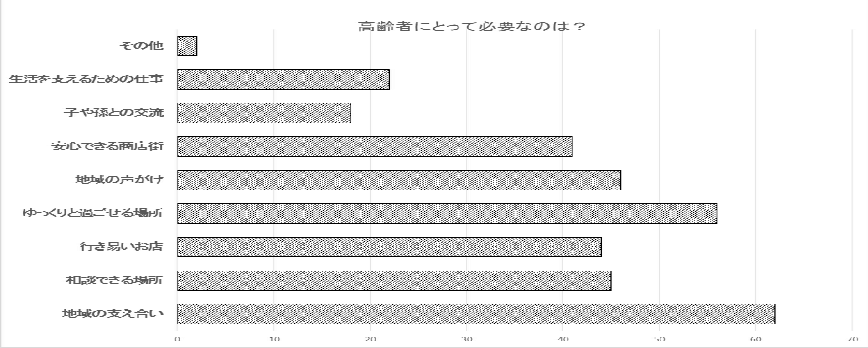
あって、高齢期＝健康という意識が高まっています。しかし、加齢とは身体的にも精神的にも喪失と背中合わせ。前向きに健康老人をめざす一方で、いつでも「その時」を迎えられるように、実はリスクマネジメントや、老いの心構え、身辺整理が「安心」の切　　り札でもあるのです。



６．日頃、あなたはどのような地域活動や　社会活動をしていますか？

今どきの高齢者は前向きで、様々な形で社会参加しています。健康づくり、趣味や学習活動だけでなく、サークル活動やボランティア活動など、協働・共働のさん参画型の高齢者が多いことを実感させられます。一方、何もしていないと言う人もいて、こうしたイベントへの参加をきっかけに社会参加してほしいものです。

７．　高齢者が安心して過ごすためにどんなことが必要だと思いますか？



高齢者の多くは「地域での支え合い」や「声がけ」こそが地域で安心して暮らす「鍵」だと考えています。また、健康維持や孤立を防ぐためにっももっと安心して出かける商店街やゆっくり過ごせる場所、気軽に相談できる「場所」を求めています。最終章を委ねざるを得ない子や孫との交流よりも、まずは自立して地域で生きようとする高齢者の姿が浮かんできます。

●アンケート結果から

私たちは日一日と年を重ね、残された時間を刻々と終わりに向けて歩いています。人が生きて旅立つまでの時間をどのように過ごすかは、人ぞれぞれの思いがあり、モデルがあるわけではありません。

イベントに参加された高齢者のアンケート調査から見えてくるのは、最終章に向けて、健康づくりに励み、自分を鼓舞し、認知症にならないように自衛する自立型の高齢者の姿です。しかし、どのように自衛し、鍛えても人は老い、衰弱していきます。いつかは誰かの手を煩わせて旅立ちます。

私たちは、この事実を直視し、もう少し子や孫に甘え、近隣に心を開き、他と共存する中に老いの平安があることに目を向ける必要があるのかもしれません。

いずれにしても老いの現実は孤独であり、残酷でもあります。その中で長い時間を過ごすためには、他との交流が欠かせないにしても、まずはそれぞれが「いかに生きるべきか」をテーマに自分と向き合い、備え、マネジメントする力を養うことが、高齢期の安心にとって喫緊の課題であろうと考えざるを得ません。